



## 看護ケア推進たより 9号

2016年2月

### 田中看護部長 年度末ご挨拶



駆け抜けた平成 27 年度も、そろそろ終えようとしています。

当院が、平成 26 年に JCHO グループ 57 病院の一員となって以来、事あるごとに「大阪病院看護部は人材が豊富」と周りから煽てられ、その影響による新陳代謝なのか、今年度に新しく看護師長に任命されたものは 5 名、副看護師長は 12 名でした。新病院に移転後は、多くの新人看護管理者を率いてのスタートでした。

初めて看護管理に携わる者も、引越しの混乱の中でも看護の質を維持させようと看護職員全員が奮闘してくれました。そして各部署で地道に活動してくれたのはリンクナースです。今年度はそんなリンクナースに焦点を当て「きらり、リンクナース」として紹介してまいりました。

一方で看護ケア推進会議メンバーによる、地域へ向けた活動は勢いを増し、『訪問します！！健康講座』は訪問看護師等から驚きと称賛を得ています。今年度定例化した CN・CNS による事例検討会は、次年度は地域の方々とも共有できる場とし顔の見える連携をさらに深めていきたいと思っています。



### 第 1 回 フットケア・スキンケア検討会の開催報告

診療科・職種のフィールドを越えて語ろう！を合言葉に、平成 27 年 12 月 12 日『第 1 回フットケア・スキンケア検討会』を開催致しました。当院には足潰瘍の治療、壊疽や切断を繰り返す患者さんが多く受診され、その病態の複雑さから、足病変の予防・治療のためにはチームの協働が不可欠と考え、フットケアチームを結成しチーム医療を推進してきました。しかし、病院の中だけで解決する問題ではなく、治療後も足病変の予防、歩くことができる足を維持していくことが重要であり、地域で高齢者と密接にかかわるケアマネージャーや介護職、看護職の方々の力は必要不可欠であると感じました。



今回、医師（皮膚科、糖尿病内科、形成外科、循環器内科、血管外科、腎臓内科）看護師、義肢装具士、理学療法士、管理栄養士、臨床工学技士、介護福祉士、ケアマネージャーの様々な職種（84 名）の方々にご参加頂き、活発な検討会を開催することができました。お忙しい中、参加して下さいました皆様には感謝申し上げます。

開催内容は、第1部は難渋した症例について3例を検討しました。第2部の講演は3名の先生方にご講義を頂きました。1つ目の講演は、知っているようで実は知らない高齢者のスキンケア対策について、2つ目の講演は、フットケアの対象には心疾患を合併している患者が多く、事例の紹介や運動時の注意点について、3つ目の講演は、高齢者が歩き続けるための体づくりについて、ゴムチューブを使った運動レクチャーなど、具体的にわかりやすくご紹介頂きました。



参加者の質問に答える皮膚科 池上部長



運動レクチャーをする理学療法士2名

また、フットケア個別相談コーナーでは、フットケアグッズの展示や個別相談をたくさん頂き、顔が見える関係づくりの場になりました。これからも地域医療を推進し、それぞれの職種の立場で何ができるのか？を一緒に考え、皆様と力を合わせていきたいと思っております。どうぞ、宜しくお願い致します。

## 「第7回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告

平成27年10月6日に第7回ケア連携の会を開催致しました。新病院となり初めての会で、地域より30施設51名の方と院内職員28名、計79名が参加しました。

今回は「家で過ごしたいと希望する末期がん患者を支えるための連携とは」というテーマで、仲森がん看護専門看護師、病棟の土井看護師、外来の今西看護師、地域より訪問看護ステーション管理者の方から事例紹介を行っていただき、事例検討を始めました。



症状コントロールが困難で、PCAポンプを利用し疼痛コントロールをされている末期がんの患者さんに対し、本人の「家で過ごしたい」という思いを叶えるために綿密な連携をとった事例でした。会場からは「今後在宅での看取りについてどのようにアプローチしていくのかを改めて考え直す機会となった」「連携の必要性・重要性を再確認した」等の意見が寄せられました。

今後も地域の方からのご要望を伺いながら、ケア連携の会を続けていく予定です。



## 専門看護師 合格報告 & 認定看護師 更新報告



### 高尾鮎美 がん看護専門看護師

この度、当院で2人目となるがん看護専門看護師の試験に合格しました。専門看護師は複雑で解決困難な問題を抱える患者さんやご家族に対して、質の高い看護ケアを効率よく提供するために、【実践】、【相談】、【調整】、【倫理調整】、【教育】、【研究】の6つの役割を担っています。



現在は呼吸器（11階東）病棟と放射線治療部で、診断期、治療期、緩和ケアが主体となる時期、それぞれに応じた症状緩和、セルフケア支援、意思決定サポートなどのがん看護に従事しています。複雑ながん治療計画の中で、迷い悩んだ時に皆様の力になれるよう、医療チームの一員として研鑽を積み、役割を果たしたいと思います。

### 土岐昌世 がん化学療法看護認定看護師

私は、2005年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、今回2回目の認定更新を行いました。認定更新には、自己研鑽の実績や認定看護師として看護の質の向上に寄与した活動の報告が必要となります。私の場合は、がん看護と治療に関する学会を中心に参加し、知識の習得に努めているため、これらの参加実績を報告しました。また院内外の活動では、2007年より実施しているクリニカルラダー別の院内教育（コアレクチャー及びエキスパートコースⅡ・Ⅲ）について報告しました。この研修は、5年間で486名の方に受講していただくことができました。今後も皆様の実践に役立つよう基礎知識及び受講生の皆様のご意見を参考により充実した研修内容になるよう努力していきたいと思います。



### 澤井真理 集中ケア認定看護師

集中ケア認定看護師を習得後、5年が経過し、無事に更新する事ができました。看護実践、継続した看護を行う為には、患者さんを観察する力が必要と考えます。今後もベッドサイドで受け持ち看護師と一緒に患者さんを観察し、問題を考え、実践・評価を繰り返して行ないます。また1日でも早く患者さんが自宅に帰ることが出来るように努力していきます。現在ICUで勤務していますが、急性期病院である大阪病院には集中的な看護ケアが必要な患者さんが病棟にもたくさん入院されています。院内研修では、実践に即した研修を行い、患者さんの変化で注意したい点や予測される変化をわかりやすく伝えるように努力していきます。今後ともよろしくお願いいたします。



### 中西由香 皮膚排泄ケア認定看護師

皮膚排泄ケア認定看護師を習得後、10年の節目を迎えることができました。認定看護師として活動していく中で、困難な事例にどう対処すればよいのか悩むこともたくさんありましたが、看護部長を始め、たくさんの方々の支えがあり、日々のディスカッションを通じて「一歩、また一歩」と成長することができたのだと思います。次の5年間は、今に甘んじることなく、また新たな課題にチャレンジしていきます。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。





NICU 感染予防対策実行委員 中山 明菜 看護師

リンクナース2年目になりました。委員会での伝達事項を2部署(8階西・NICU)へフィードバックし、スタッフの理解度や行動の確認、病棟の状況把握をすることは難しいですが、リンクナースとなって多くのことを経験しながら、楽しく学ぶことができ、自分自身の成長に繋がっています。

NICU内での問題点に対し改善策を検討する中で、自分自身の感染対策行動や思いを見直すきっかけになり、またスタッフへの指導の難しさも実感しています。

まずは自分から手指衛生・感染対策を心がけ行動することでスタッフの意識向上につながっていくと願い、これからも日々精進していきたいと思っています。



「可愛いベビーに癒されますが、触れる前の手指衛生は忘れません！」(写真左が筆者)

## 感染予防対策実行委員会の紹介



感染予防対策実行委員会は各部署から18名の看護師がリンクナースとして参加しています。感染予防について患者さんに指導することはもちろん、スタッフ一人一人の予防行動が感染防止に重要です。リンクナースは自部署で自分自身が適切に感染対策を実施できることはもちろん、スタッフへの指導という重要な役割を担っており、感染管理上問題が生じたときは師長・副師長とともに改善に向け中心となって活動してくれる感染管理認定看護師の強い味方です！

これからも各部署のリンクナースと協力し、患者さんに安全な医療かつ安心できる看護を提供できるよう感染予防活動を行っていききたいと思っています。(感染予防対策実行委員会委員長 小井里香)

### 編集後記

今年度も看護ケア推進たよりをご愛読ありがとうございました。新病院移転・病院機能評価受審と日々の看護ケアを振り返り、今後の課題を見出す一年でした。来年度も、一丸となって一歩ずつ着実に進んでいけるよう努力致します。皆様と共に患者さんに寄り添った看護・医療の提供を目指していきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。(T)